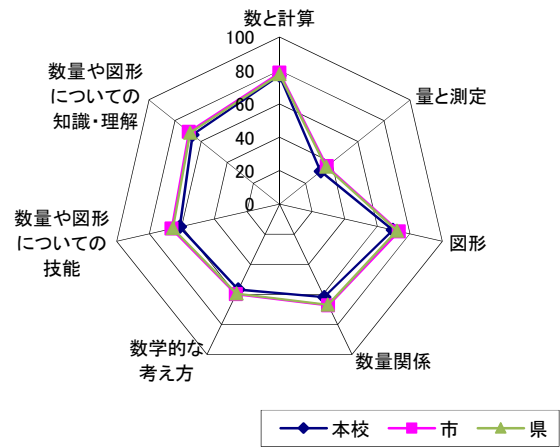


宇都宮市立白沢小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.0	78.6	77.7
	量と測定	31.6	36.3	35.7
	図形	69.7	73.3	72.1
	数量関係	61.8	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	56.8	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	61.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	66.7	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は77.0%であり、県平均よりも0.7ポイント下回っている。かけ算、分数、億と兆・がい数の表し方などは、県平均を4ポイント前後上回っている。学校全体で行っている朝のプリント学習や習熟度別・少人数学習など、個に応じた学習形態が底上げにつながっていると考えられる。 ●小数の計算の平均正答率は、県平均よりも19.4ポイント低い。小数点の打ち忘れや筆算の仕方に課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・数量やその関係を言葉・数・式・図・グラフなどに表したり調べたりする学習活動を継続していくことで、数と計算についての知識や数学的な考え方を深めていく。 ・文章題の理解については、テープ図や数直線等の具体物を取り入れ、問題場면을視覚化した指導を行っていく。
量と測定	○平均正答率は県平均より4.1ポイント下回っているが、1㎡の正方形は1cmの正方形何枚分かを求めるという設問の正答率は県平均を約4ポイントほど上回っている。 ●およその面積を推測し選ぶ設問では、23.1ポイント下回っている。cm ² やm ² 、kmなどの単位の推測することに課題がある。 ●無解答率が34.2%となっている。面積の求め方を文章によって表現することに課題がある。	・ただ公式を覚えるのではなく、身近な物の情報と公式、単位を照らし合わせて事柄を比較・整理して解決することができるような場を設け、定着を図る。 ・授業の中で、課題の解決の仕方を言葉や文章で表す場を設けることにより、表現力が身に付くように指導していきたい。
図形	○平均正答率69.7%であり、県平均を2.4ポイントほど上回っている。図形に関する知識や理解力が高い。 ●平行四辺形を作図する設問では、県平均を8.7ポイント下回っている。定規やコンパスの正しい使い方に課題がある。 ●式に合った複合図形の面積を求める方法を説明する設問は、県平均より11ポイント低い。	・図形の性質を理解した上で、作図の仕方を確認する。定規やコンパスの正しい使い方に課題があるので、適切に使えるよう指導する。 ・立体の学習に関しては、立体模型を取り入れた活動を増やすとともに、生活の中の立体にも触れさせたい。
数量関係	○平均正答率は61.8%であり、県平均より5ポイント低い。 ●2つのグラフについて正しくない説明を選ぶ設問は、県平均より13.8ポイント低い。	・折れ線グラフや設問の意味を正しく読み取ることができるよう、算数の授業だけではなく、いろいろな場面で折れ線グラフの読み取り方を指導していく。